

恵みと真理のニュース



2014年12月の三次 恵みと真理教会

韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養5洞 458-5 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net



【証】

恵みと真理教会が御言葉と聖霊で満たして川のように 神癒の恵みが流れるように働く神様を賛美します。

体の異常がなかったですがある日から下血をしました。お腹が痛くもないのに何の理由もなく下血をしました。歳をとっても閉経をしたが出血するのは何か体に異常があると思って病院に行って診察をしました。医師は両方の喇叭間の中で筋腫が出来たから下血をする原因になるが閉経以後なので自然になくなる可能性もあるのもう少し経過を見てみましょうと言われました。家に帰って来てたとえ、少ない量でも続けて下血をして不安になり神様に切に祈りながら教会でも期間を決めて祈ることを頼みました。6週間礼拝を捧げましたが不安な心で息子と共に病院に行って担当の医師に今までの状態を話しました。精密検査をしてみましようと言う医師のとおり組織検査を受けました。病院にはすぐ開いてる病室がなくて仕方なく産後養生院に入院してもしかしてする手術を待ちながら基本的な検査を進めました。四日後の結果は衝撃的でした。“子宮内膜癌”で早く手術をしないといけないと言われました。瞬間とても驚いて落胆しました。しかし、すぐ神様に祈り上げての事を委ね大胆な心で手術をしました。神様の恵みですぐ手術が進行され2011年7月27日に病院で入院して8月2日に手術を受けました。神様の恵みで良く手術を受けました。手術後、集中治療室で夜を明かしました。医師は“大変な手術をして良く勝

ちました。手術は成功です。”一般病室で移してもよいと言われました。その後、一週間後から早く回復するため運動するように言われました。初めはお腹が痛くて起きる事も座る事も出来なくて何も食べないのに運動をするなんて医師を恨みましたが、珍しくいたいお腹で手を当てて娘の手を握ってゆっくり起きて歩く練習運動から始めました。心で賛美をしながら神様に祈ると運動するそんなに大変ではなかったです。神様が私を助けてくださる事を感じました。早く回復をして14日ぶりに退院して家に帰って来ました。家に帰って来て初めはまるで四角い箱の中に閉じ込められているようでした。まだ、免疫力がまだ落ちているから教会にもいけなくて区域長も誰一人も会えない状況だったからです。5ヶ月間病院と家だけ行き来すると寂しくて大変な時に聖書を読み神様の御言葉を黙想して祈りながら大変な時間を耐え忍びました勝利しました。すべての苦痛を勝って勝利するように続けて新しい力を与えて下さり見守って下さいました。病院に再び行って1次の抗癌治療を受けて四日後に退院してまた15日後に2次の抗癌治療を受け四日後退院して、そのように体力を鍛える治療と抗癌治療の過程を六回も振替しました。普通の患者は2次の抗癌治療をするとても大変で倒れそうですが私は神様が共にいて守って下さり大変な抗癌治療を全部終えることが出来ました。その後は一ヶ月に一度病院に行って以上の有無の検査

をしました。その時ことに以上がないと医師の話聞いてとても嬉しくて神様に感謝を捧げました。なによりも神様に感謝する事は以前のように教会を通い礼拝を捧げて区域の聖徒達を愛し仕えるように首区域長として職分を担えることができたことです。重病を患って健康な体で自由に人々に福音を伝え職分に忠誠を尽くすのは幸せで大きい祝福である事を悟りました。私の健康の回復のため礼拝の事に当会長の牧師が神癒の祈りをしてくださり教区の多くの聖徒も祈ってくださり、教役者達からも訪問して御言葉を伝え祈って下さいました。愛する旦那と子供達も大変な気振りも見せなく私の病気が治るように一つの心で切に祈りました。愛が多く全能である神様、エホバのラファフの神様は答えて下さり大胆な勇気と恵みで治療を受けるようにして下さいました。我々の教会が御言葉と聖霊で満たして川のように神癒の恵みが流れるように働く神様に栄光を捧げます。そして、2012年春に栄誉である区域長20年の勤続賞まで受けました。このすべての神様の恵みに真の感謝をします。これから体が完全に回復されるまで神様が変わりなく私を守って治療の恵みをくださる事を信じます。それで、もっと健康な体で心を尽くして主と教会と聖徒を仕える区域長の職務に献身をします。ハレルヤ！われらの主を真心で賛美します。



【信仰コラム】

あなたがたはわたしをだれと言うか

そこでイエスは彼らに言われた、「それでは、あなたがたはわたしをだれと言うか」シモン・ペテロが答えて言った、「あなたこそ、生ける神の子キリストです」(マタイによる福音書, 16:13~17)

“あなたがたは私を誰だと言うのか?” イエス様のこの質問はすべての人生たちに返事を要求する質問です。イエス様が誰なのかを分かるとクリスマスと真の意味が分かりました。そして心から喜んで感謝しながらイエス様の誕生の日を記念するようになります。聖書はイエス様を指称する名前たちを啓示しています。その名前たちがイエス様のこの質問に対する答です。

第一、'イエス'という名前です。マリアと縁定めしたヨセフが同居する前に妻マリアが孕胎されたことが分かって悩んだ時に天使がヨセフの夢に現われて言いました。“彼がこのことを思いめぐらしていたとき、主の使が夢に現れて言った、「ダビデの子ヨセフよ、心配しないでマリヤを妻として迎えるがよい。その胎内に宿っているものは聖霊によるのである。彼女は男の子を産むであろう。その名をイエスと名づけなさい。彼は、おのれの民をそのもろもろの罪から救う者となるからである」”(マタイによる福音書, 1:20, 21) しました。'キリスト'という名前はイエス様がこの世の中へいらっしやった目的が罪人を救われるためのことなのを現わしています。

第二、'イエスキリスト'という名前です。神様の息子という呼称はイエスキリストを信じる者等に与えられる名前です。しかしイエスキリストという呼称はイエ

ス様だけ当たる名前です。“そして言は肉体となり、わたしたちのうちに宿った。わたしたちはその栄光を見た。それは父のひとり子としての栄光であって、めぐみとまこととに満ちていた”(ヨハネによる福音書, 1:14) しました。イエス様の誕生は永遠の前からいらっしやる神様の“ひとり子”が神様から送られてこの世の中へいらっしやったのです。

第三、'インマヌエル'という名前です。“すべてこれらのことが起ったのは、主が預言者によって言われたことの成就するためである。すなわち、「見よ、おとめがみごもって男の子を産むであろう。その名はインマヌエルと呼ばれるであろう」。これは、「神われらと共にいます」という意味である。”(マタイによる福音書 1:22, 23) しました。イエス様は2千年の前に肉身でこの世の中へいらっしやって人々が'インマヌエル'を経験するようにしたし、今は聖霊でいらっしやって聖徒たちが'インマヌエル'を経験するようにおっしやって、終末には再臨なさって聖徒たちが永遠に'インマヌエル'の恩寵の中に住むようにして下さいましょう。

第四、'救主'という名前です。'救主'という名称は'救援者'という意味です。救援の主要概念は罪からそして罪人に対する神様の終末的な懲罰からの救援を意味しています。罪ことわることと最後審判の免除だけではなく永生と天国に参加する特権まで含んでいます。この救援はイエス様のあがないを信じるすべての者に許諾されたのです。

五番目、'キリスト'という名前です。ヘルラ語'キリスト'は'油を注がれた者'という意味です。旧約時代に予言者、祭司、王に油を注ぎました。神様が罪人を

救援するために彼のイエスキリストに唯一のあがない者で中保者としての任務をくださって聖霊で油注ぎました。イエス様は神様の言葉を伝える予言者の任務を完全に行ったし、永遠な大祭司長として自分をお供えで差し上げて永遠に一氣にあがないの使役を成したし、万王の王として聖徒たちの魂を永遠に安全に守ります。

六番目で、'神様'という名前です。新約聖書にはクリスチャンを示して'主の名前を呼んでイエスキリストを主であると告白する者等'と言っています。イエス様を神様だと呼ぶ人は自分がイエス様のしもべだと自認めるのです。

七番目、'神様の言葉'という名前です。“初めに言があった。言は神と共にあった。言は神であった。この言は初めに神と共にあった。すべてのものは、これによってできた。できたもののうち、一つとしてこれによらないものはなかった。”(ヨハネによる福音書, 1:1~3) しました。'神様の言葉'は'イエス'という名前でも名付ける前に聖子神様の呼称です。

イエス様の名前たちが意味することが分かってこれに信じて告白しながら伝える人々は全く幸福もたつた人々です。このような名前たちが持った意味によってクリスマスの喜びと感謝が皆さんの心の中に一杯になるように願います。

「チヨヨンモク牧師先生の信仰コラム『緑の牧場、清い川』本の語り中」

こんなに現われた神様の愛



恵みと真理教会 チョヨンモク 牧師

世の中で一番驚くべきで神秘で感動的なお話はイエス様の誕生の言葉です。聖徒たちがクリスマス教会の節日に定めてともに集まって礼拝しながら楽しめる理由がここにあります。今日は新約聖書のヨハネの第一の手紙 4 章 9 節から 11 節まで記録されたお言葉をよく見ることによってイエス様の誕生の意味を私たち心に振り返って喜びと感謝で充滿するようにしようと思えます。今日の本文は三つの句節に仕分けされています。この句節たちを順番どおりよく見ます。

4 章 9 節にこんなに記録されました。“神はそのひとり子を世につかわし、彼によってわたしたちを生きるようにして下さった。それによって、わたしたちに対する神の愛が明らかにされたのである。”（ヨハネの第一の手紙、4：9）聖書にはどんな言葉が記録されているのか手短かに一言二言として知らせてくれと言う要請を受けるようになれば皆さんはどんなに答えますか？“罪人を救援する神様の恋物語”と言えば適切な返事になるでしょう。人が一生の間で得るようになる知識の中に最高の知識は“神様の愛に対する知識”です。人の一生で最上最大の経験は“神様の愛が分かってその愛の中に暮らすこと”です。“神様の愛”という言葉の中に盛られている意味は限りなくその誰もその深みをすべて測量することができません。ところで本文には神様の愛の中にも特別な愛を言及しています。“神様の愛がこんなに現われた”と言った後“神様が自分のひとり子を送り”と説明しました。‘イエスキリスト’という単語の意味を理解するためにこの単語が使われた句節の何かを列挙して見ます。ヨハネによる福音書、1 章 14 節に記録されるのを“そして言は肉体となり、わたしたちのうちに宿った。わたしたちはその栄光を見た。それは父のひとり子としての栄光であって、めぐみとまこととに満ちていた。”としました。ヨハネによる福音書 1 章 18 節には“神を見た者はまだひとりもない。ただ父のふところにいるひとり子なる神だけが、神をあらわしたのである。”と記録されています。ヨハネによる福音書 3 章 16 節には“神はそのひとり子を賜わったほどに、この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである。”と記録されました。‘ひとり子’はイエスキリストに対する呼称であり、特に聖父の神様との関係の中で呼ばれる名称です。イエス様は三位一体の中の一りになるので父の神様との関係で父にあってわたしたちのうちに宿った神様を形容されました。そうするので“神様のひとり子”は肉体でこの世の中へいらっしやる前からいらっしやいました。イエス様は永遠の前からいらっしやる“神様のひとり子”が父神様が送らせて世の中へいらっしやったのです。神様が自分のひとり子を送った目的を“彼によって私たちがいかさせるとなるのである”と明示しました。

このお言葉には二つの意味が含みされています。

第一、魂が死の状態にある私たちの実際を指摘しています。エペソ人への手紙 2 章 1 節に記録されるのを“さてあなたがたは、先には自分の罪過と罪とによって死んでいた者であって”しました。魂が死んだ状態にある人間は肉体の死とともに滅亡に至るようになります。滅亡と言うのは人間存在の滅絶ではないです。地獄の刑罰に処するようになることを意味します。人間の魂は滅絶されません。地獄の刑罰は永遠される刑罰です。

第二、“私たちがいかさせるとするのである”と言うお言葉は魂が死の状態にある人間に永生をくださるという嬉しい消息です。永生は永遠不滅という意味より神様との新しい関係に入っていくことを意味します。永生はイエスキリストによって聖霊で生まれかわった人が持つようになった命です。永生は天国で神様と永遠一緒に暮らすことを示します。魂が死の状態にある人間をいかさせると神様がそのひとり子を世の中に送られました。イエスキリストの誕生は神様の愛がこんなに現実化されたのです。

4 章 10 節にはこんなに記録されました。“わたしたちが神を愛したのではなく、神がわたしたちを愛して下さって、わたしたちの罪のためにあがないの供え物として、御子をおつかわしになった。ここに愛がある。”

人間が神様を愛する根源的な理由を説明するお言葉です。人間が神様を愛することは神様の愛を経験した反応から始まったのです。‘和睦の祭祀’と言うのは罪によって神様と分離した人間を神様とむつまじくするための目的に差し上げられる祭祀を示します。和睦の祭祀には犠牲の供え物の血が要求されました。血が流れることがなしには罪のゆるしがないです。旧約時代には羊ややぎを和睦の供え物でも差し上げました。人の罪をあがないのに動物を犠牲の供え物で差し上げる祭祀は不完全です。だからこんな祭祀は完全で永遠な犠牲祭祀に対する模型と影でした。神様は完全で永遠な和睦供え物を予備なさいました。その供え物が神様のひとり子、イエスキリストです。イエスキリストはあがないの供え物になって罪人のすべての罪をあがないの和睦供え物になって神様と敵になった人間を神様とむつまじくしました。

その事実がヘブル人への手紙 10 章にこんなに記録されました。“いったい、律法はきたるべき良いことの影をやどすにすぎず、そのもの真のかたちをそなえているものではないから、年ごとに引きつづきささげられる同じようないけにえによっても、みまえに近づいて来る者たちを、全うすることはできないのである。”（ヘブル人への手紙、10：1）。“次に、「見よ、わたしは御旨を行うためにまいりました」とある。すなわち、彼は、後のものを立てるために、初めのものを廃止されたのである。この御旨に基きただ一度イエス・キリストのからださがさげられたことによって、わたしたちはきよめられたのである。こうして、すべての祭司は立って日ごとに儀式を行い、たびたび同じようないけにえをささげるが、それらは決して罪を除き去ることはできない。しかるに、キリストは多くの罪のために一つの永遠のいけにえをささげた後、神の右に座し、それから、敵をその足台とするときまで、待っておられる。

彼は一つのささげ物によって、きよめられた者たちを永遠に全うされたのである。”（ヘブル人への手紙、10：9～14）。

神様から送られてこの世の中へいらっしやったイエスキリストが和睦の供え物になりました。そして苦難に適ったし十字架に釘付けられて血を流れて死なれたのです。予言者イザヤはイザヤ書、53 章で苦難されるイエス様に対して描きました。“まことに彼はわれわれの病を負い、われわれの悲しみをになった。しかるに、われわれは思った、彼は打たれ、神にたたかれ、苦しめられたのだ。しかし彼はわれわれのとがのために傷つけられ、われわれの不義のために砕かれたのだ。彼はみずから懲らしめをうけて、われわれに平安を与え、その打たれた傷によって、われわれはいやされたのだ。われわれはみな羊のように迷って、おのおの自分の道に向かって行った。主はわれわれすべての者の不義を、彼の上におかれた。”（イザヤ書 53：4～6）神様の愛は私たちの理解と想像を超越する驚くべき愛です。だから神様の愛に比べれば神様に向けた人間の愛はとても小さいことに過ぎないです。事実を言わば、私たちがイエスキリストにあって現われた神様の愛に報いる方法はないです。報答が不可能です。神様に向けた私たちの忠誠と献身はただ神様の愛と恵みに対する私たちの喜びと感謝の表現に過ぎないのです。

4 章 11 節にはこんなに記録されました。“愛する者たちよ。神がこのようにわたしたちを愛して下さったのであるから、わたしたちも互に愛し合うべきである。”

神様の大きい愛を受けた人々には神様の愛に対する喜びと感謝の表現として忠誠と献身の外にも実践しなければならないことがあります。それは“お互いに愛すること”です。その愛の実践には他人を赦しと慈善を行うのが含まれます。しかしそんな事は神様の愛が分からない人々も行っています。神様の愛を体験した人から見られる独特の愛の行為は福音を伝えるのです。そして信じる者等の信仰の高揚を助けるのです。

聖徒たちは神様の愛に対する悟りと体験の深みに比例して神様に向けた愛と隣りに対する愛もふんだんになります。聖徒たちがお互いに愛することは神様の愛が自分の中にあるという証しです。クリスチャンは神様の愛が生の原動力になって、神様を愛するのが目的になって、隣りを愛することを神聖な義務で思うようになります。クリスマスは今までよく見たとおり“こんなに現われた神様の愛”を思ってその愛による喜びと感謝が火のように立つ日です。クリスマスはもっと多い人が神様の愛を体験するようになるのを祈ってこの事のために献身の念をおす日です。

今日の本文をまた読んでクリスマスの意味を心深く刻む皆さんになってください。“神はそのひとり子を世につかわし、彼によってわたしたちを生きるようにして下さった。それによって、わたしたちに対する神の愛が明らかにされたのである。わたしたちが神を愛したのではなく、神がわたしたちを愛して下さって、わたしたちの罪のためにあがないの供え物として、御子をおつかわしになった。ここに愛がある。愛する者たちよ。神がこのようにわたしたちを愛して下さったのであるから、わたしたちも互に愛し合うべきである。”